

「ラジオ NIKKEI おとなのバンド大賞 2021 年度グランプリは

haru.kobayashi の「一休」に決定！

「決定！おとなのバンド大賞グランプリ」表彰の様子はポッドキャストや

ラジコのタイムフリー（1/7 まで）でお聴きいただけます！

ラジオ NIKKEI(本社:東京都港区、代表取締役社長:吉田京太)で放送中の、大人のための大人のライフスタイルに焦点をあてた番組「大人のラヂオ」(毎週金曜日11:35~12:30)で開催した音楽コンテスト「ラジオ NIKKEI おとなのバンド大賞」の2021 年度グランプリに、haru.kobayashi の「一休」が選ばれました。

表彰の様子を昨年12月31日(金)に放送した『決定！おとなのバンド大賞グランプリ！』でお届けしました。放送後もラジコのタイムフリー(1月7日まで聴取可能)やポッドキャストでお聴きいただけます。受賞曲をたっぷりとお楽しみください。

◇「ラジオNIKKEI おとなのバンド大賞」とは…

輝く大人を応援するラジオ番組「大人のラヂオ」内で、大人で構成されたバンド(40歳以上のメンバーを1人以上含む20歳以上のメンバーで構成されたバンド)による演奏・楽曲をコンクールする場として2012年より毎年一般募集を行い、グランプリを選出してきました。作品はオリジナル・カバーいずれも可としております。

◇「大人のラヂオ」レギュラー番組概要

大人のライフスタイルに焦点をあてた番組。健康・医学の話題を中心に、こころ、人生論、音楽、教養文化、スポーツ等、大人のための大人の情報をお伝えします。

放送日時：<本放送>毎週金曜日 11:35~12:30 <再放送>毎週月曜日 21:30~22:25

パーソナリティ：岡田信一(音楽プロデューサー)、坪田一男(慶應義塾大学名誉教授)、手嶋龍一(外交ジャーナリスト)、一青妙(女優・歯科医)、ほか

放送メディア：ラジオNIKKEI第1/ラジコ ※ラジコのタイムフリーで放送後も1週間お聴きいただけます

アーカイブ：ポッドキャスト、スポティファイ等で配信

提供：野村證券 ギリアド・サイエンス株式会社 アツヴィ合同会社

番組ウェブサイト：<http://www.radionikkei.jp/otona>

以下、受賞バンドについて

■2021年度 ラジオNIKKEI おとなのバンド大賞 グランプリ

haru.kobayashi 「一休」



今回のアルバムは「人生、人、命」がコンセプトで、人生をどのように全うするか、人間の美醜、限りある永遠の命など、コロナ禍の中でこそ、自分と向き合い、見つめなおした結果生まれたアルバムをつくりました。

その中でも、今回応募した「一休」は、人生の半分を過ぎた不器用で上手に生きられない者が、それでも一生懸命生きる様を描いた一曲です。

「気に入らぬ風もあるだろう 柳ゆらゆら よっこいしょっ、と木陰に腰かけて あー、一休み」

この状況の中、苦悩しながらもなんとかしようともがいている人や、人生を駆け足で走り抜けてきた人にぴったりの曲です。口ずさみやすいメロディだと思うので、「あー、一休み♪」と歌いながら空でも見上げてみてください。

この世に縁あって授かった命、おもいきり楽しく使い果たしたい。なお、ボーカルの小林茂治氏は中途失明したものの、子供たちのためにも「オヤジの頑張っている姿」を見てもらいたいと音楽活動を展開している。

「将来は、親子でバンド活動をしたい」と語る。

審査員からは、「特徴あるハイトーンで、ビブラートが効いたボーカルが印象的、歌詞の世界がいい」、「NSP を彷彿させるアーティスト」、「(コロナの)現代と過去(室町～江戸時代)の時代が交錯する世界観が魅力的」「この視点を续て、また新しい楽曲の創作を期待したくなる」との評価を受けた。

グランプリほか、優秀賞6曲は以下の通り

●優秀賞(おとバン de グランプリ(ネット最多得票賞))

イタバシケ『アイスクリーム』(仙台市)



(自己 PR 文より)

2018年4月結成、メンバー全員苗字が板橋という同姓バンド。札幌生まれ仙台育ちのハイチーズ板橋(ギター)と上越生まれ仙台育ちの板橋直美(ボーカル&カホン)は夫婦。会津出身仙台在住のバツシー板橋(ベース)はプロカメラマンとしても活躍。

「仙台発 POP でキュートでビートルリーな 60's 風ロックンロールバンド」のキャッチフレーズで仙台を中心に活動中。カホンボーカルを中心にしたドラムレス 3 ピースバンド故の抜群の機動力を売りにどんな場所でも演奏できます。

ビートルズ等の 60 年代ブリティッシュイノベーションのエッセンスを大胆に取り入れた日本語ロックをぜひ 1 度お試し下さい。

3 曲入り 1st マキシシングル CD を 1,000 円で発売中。前年度のおとなのバンド大賞では光栄にも「恋のサバイバー」で優秀賞を頂きました。

今年も受賞して、おとバンのライブに参加したいです！

●優秀賞(井上鑑 賞)

D.O.FUNCK「Bonds of life どこまでも続いている生命の絆」

(甲府市)



(自己 PR 文より)

今年で結成 24 年を迎えた 13 人編成の大所帯バンド。

メンバー各自、本業を優先することを基本として、年齢を重ねても楽しくバンド活動を継続できるよう家族、知人の理解を得る中で 24 年間ほぼ同じメンバーで活動を継続している。

おとなのバンド大賞では 2017 年度、2019 年度にそれぞれ優秀賞、2020 年度には準グランプリを受賞した。

今回の応募楽曲「Bonds Of Life」は、カンボジアの学校への支援を目的としたチャリティーコンサートに参加していた時に作った楽曲です。

今もなお続いている戦争、紛争、内戦等により命を失う子供達が沢山いるという現実。

1 日でも早く世界平和が実現し、世界中の子供達が安心して暮らすことができるように祈りを込めて作りました。

本編最後のゴスペルパートでは、音楽仲間のゲストミュージシャン(安藤あき・チャイルドフッド 3 名)を迎え、合計 8 人で多重録音を繰り返し、最終的には約 50 人で歌っているような迫力あるライブ感を再現しています。是非、曲の最後まで聴いてみてください。

●優秀賞(清水仁 賞)

桔梗屋『娘の男』(愛知県常滑市)



(自己 PR 文より)

最後のライブはいつ演ったのか...もう忘れてしまう位に時間が経ちました。
バンド遊びが出来る時間はそれほど残っていないのに、月日だけは無為に過ぎて行き何だか諦めの境地に達して来ました。

そんな最中に忘れられない出来事が。。娘。

小さい頃から男を見る目が全くない娘で心配していたのですが、ある日『フィアンセ』と称する彼氏を連れて来たのです。良かった！と祝福する気分満々でしたが、娘が夢中な彼氏、何と無職のバンドマン だと云うではありませんか！

話をしている内に娘の男はどんどん饒舌になり、反対に私はどんどん無口になって行きました。

『バンドやってる男に近づくな！』と子供の頃から言い聞かせて来たのに。。と女房に愚痴ると『因果応報ね』と一言で返されました。とてもとても悲しい。

●優秀賞(ふとがね金太 賞)

廻転『リング-Ring』(武蔵野市)



(自己 PR 文より)

一度観たらトリコになる独特な世界観、宇宙観を持つバンド、廻転です。
昨年は念願のグランプリをいただき、ありがとうございました。
今年もグランプリ連勝を目指して応募させていただきます！

応募した「リング-Ring」は、Gt.&Vo.のタケシが沖縄から東京までギター1本背負って原付バイク一人旅を行った際に、夜の移動中に大分県別府市でタイヤがパンクしてしまい、お店を探したが夜のため開いておらず、途方に暮れ、朝まで公園のベンチで野宿することにしたそうです。

もう4月でしたが、野宿するにはまだ寒い季節の心細い中、ベンチに腰掛けて、ふと顔をあげると、公園に隣接していた教会の十字架が月の明かりを反射して白く光っているのが見えて、幻想的な雰囲気の中、「幻」「月」「鐘」「羽」という単語がぶわっと思い浮かんでできた曲です。

新型コロナで翻弄された2年間ですが、今後活気ある日常を送れるように、おとバンを含む全てのエンターテインメントが更に飛躍するように、願いを込めてこの曲を今年の応募曲としました。

●優秀賞(坪倉唯子 賞)

きどよしこ & 幸重洋平『GORO』(岡山市)



(自己 PR 文より)

2011 年に結成した夫婦で子育て中のボーカルとギターユニット。

岡山県を拠点に全国各地のイベントやライブに出演。

Pops、Jazz、Soul、Country、Rock、Latin、Healing など多彩なジャンルカバーはもちろん、日常生活の歌詞にした愉快で叙情なオリジナル曲や、ライブでは名物の夫婦漫才も披露。

生きた楽器と生きた声で涙と笑いのエンターテインメントショーを展開。

またさまざまな音楽シーンで岡山県内外の著名アーティストとの共演や、メディアに出演するなど多種に活動。

本業は音楽療法士と言うユニークな職業。

おかやま国際音楽祭 2019 エンターテインメントチャレンジ+【グランプリ受賞】、ラジオ NIKKEI「おとなのバンド大賞 2020」【おとバン de 賞受賞】、2021 年 4 月 CD アルバム「こんなカンジでしよります」全国盤リリース。

●優秀賞(企画賞)

あだみゆん『そろそろ髪を切る時だ』(大田区)



(自己 PR 文より)

母(86歳)・私(57歳)・娘(21歳)による親子3世代ユニット「あだみゆん」。

この曲は、各人と社会が抱える課題と、次の段階へ移行する意気込みを謳うポエトリーリーディング。(母は2年前の転倒による恥骨骨折、私はプレッシャーのかかる仕事、娘はファッション専攻の課題と就活、社会は新型コロナウイルスによる行動自粛とコミュニケーションの断絶)

それぞれが、傷ついても挫けても失敗しても「復活」「成長」を目指す一方で、それを支えているのが「親子の無条件の愛」であり、いつでも繋がっているという「安心感」であることも伝えたかった。

私を挟んで母と娘も繋がっている。

この曲は我家の2021年の記録であり、感謝の気持ちの記録でもある

●審査員プロフィール

○井上 鑑（いのうえ あきら、1953年生まれ 東京都出身）

作詞・作曲・編曲家、音楽プロデューサーであり音楽アレンジャーである。大学在学中からCM音楽を初めとする音楽活動を始める。大瀧詠一、福山雅治、寺尾聰、稲垣潤一、THE ALFEE、南佳孝等のアーティストとの音楽活動に参加している。「ルビーの指輪」の編曲で、日本レコード大賞を受賞している。1996年より国立音楽大学講師をつとめる。

○清水 仁（しみず ひとし、1950年生まれ 大阪市出身）

オフコースの元メンバーで音楽アーティスト。高校生時代の友人とロックバンド「ザ・バッド・ボーイズ」を結成。バッドボーイズ解散後、オフコースのメンバーとして活動。1989年、オフコース解散後は、吉田拓郎のバックなどを経て、1993年よりソロ活動を続けている。

○ふとがね 金太（ふとがね きんた、1955年生まれ 北九州市出身）

元ツイストのリーダーでドラマー。シンガーソングライター。高校生時代よりシンガーソングライターとして、地元の放送局に出演。1973年ポピュラーソングコンテストに九州地区代表として出場。1977年ロックバンド・ツイストのリーダーとして、「あなたのバラード」でデビュー。その後、「宿無し」「燃えろいい女」等ヒット曲と次々と発表する。その後、テレビドラマや映画・舞台での俳優活動を展開する。

○坪倉唯子（つぼくら ゆいこ 1963年生まれ 大阪府出身）

B.B.クィーンズメンバーで、ボーカル、作詞・作曲担当。「おどるポンポコリン」はミリオンセラーとなった。1982年ヤマハポピュラーミュージックつま恋本選大会入選前後から音楽活動を展開し、中島みゆき、渡辺美里等のアーティストのバックコーラス等も務める。また、日テレ系ドラマ「ジェラシー」の主題歌「ジュテーム」を手掛けたほか、ミュージカルにも出演。そのほか、洗足学園音楽大学「ロック&ポップス」教員に就任し、ラジオパーソナリティとしても活躍している。

○岡田 信一（おかだ しんいち、1955年生まれ 大阪市出身）

音楽アーティスト、ラジオパーソナリティ。大学卒業後、ヤマハミュージックエンターテイメント入社。世界歌謡祭や孀恋で開催されていたポップコン、ティーンズ・ミュージック・フェスティバル等、ヤマハの音楽コンテンツを手掛ける。雅夢、谷山浩子等のステージ制作を担当する。退職後は、音楽活動に専念する一方、ラジオ番組「大人のラヂオ」に出演する。